

成功読本

■著作権について

本教材と表記は、著作権法で保護されている著作物です。本教材の著作権は発行者にあります。本教材の使用に関しましては、下記の点にご注意ください。

■使用許諾契約書

本契約は、本教材を入手した個人・法人（以下、甲と称す）と発行者（以下、乙と称す）との間で合意した契約です。本教材を甲が受け取り開封することにより、甲はこの契約に同意したことになります。

第 1 条本契約の目的：

乙が著作権を有する本教材に含まれる情報を、本契約に基づき甲が非独占的に使用する権利を承諾するものです。

第 2 条禁止事項：

本教材に含まれる情報は、著作権法によって保護されています。甲は本教材から得た情報を、乙の書面による事前許可を得ずして出版・講演活動および電子メディアによる配信等により一般公開することを禁じます。特に当ファイルを第三者に渡すことは厳しく禁じます。甲は、自らの事業、所属する会社および関連組織においてのみ本教材に含まれる情報を使用できるものとします。

第 3 条損害賠償：

甲が本契約の第 2 条に違反し、乙に損害が生じた場合、甲は乙に対し、違約金が発生する場合がございますのでご注意ください。

第 4 条契約の解除：

甲が本契約に違反したと乙が判断した場合には、乙は使用許諾契約書を解除することができるものとします。

第 5 条責任の範囲：

本教材の情報の使用の一切の責任は甲にあり、この情報を使って損害が生じたとしても一切の責任を負いません。

【どうやら、ろくな時代が来ない】



こんにちは。

平野 謙太です。

レポートのタイトルショート ver

さて、

21世紀という時代を過ごすあなたと

ちょっと考えたいことがあったので、しばしのお付き合いを。

さて、

平和な国ニッポン国で暮らす私たちですが、

少し今までとは状況が変わってきています。

少子高齢化はいわずもがな、

雇用形態の多様化・格差問題・電力問題・打席の増えた台風、などなど。

(最後はちょっと違うかな)

レポートのタイトルショート ver

とにかくですね、20世紀までの考え方のままだと、

21世紀を生きるのは少し、いやだいがキツイです。

私たちにはもう抛り所がない。

それを真剣に受け止めなければなりません。

そんな21世紀を生き残るための最善の方法を、

これからともに見ていきましょう。

【第一章：異常な読書】



2 1世紀を生き残るために何をすべきか。

結論からいいますと**読書**です。

本を読んでください。

レポートのタイトルショート ver

とにかくたくさん読んで、頭をごちゃごちゃにしてください。

でも、なぜ読書なのでしょう？

私がいうまでもなく、

読書が大切だなどということは度々騒がれることですよね。

よくある理由としては、

“知識を身につけて自己研鑽に繋げる”というものです。

もちろん、正しい答えです。

私自身、読書をするときは上記のことを念頭に置いています。

レポートのタイトルショート ver

ところで、読書、というより本の凄さは

ただ知識を得られるということに止まりません。

ご存知でしたか？

【お会計 1 億円頂戴します】

本の凄さは、その密度にあります。

例えば、税込み 1 4 0 4 円で売られている本があったとします。

この本の著者は、

本に書いてある知識・智恵を手に入れるために

どれほどの自己投資をしたと思いますか？

レポートのタイトルショート ver

1404円？ なわけないですよね！？

本を出すくらいですから、最低でも1000万円。

もっといえば

1億円以上であっても不思議ではありません。

もちろん、1億円を読書に遣ったわけではなく

事業、勉強、研究、などありとあらゆるものに

その金額を投資したということです。

使ったのはお金だけではありません。

その著者の費やした**膨大な時間も含まれています。**

レポートのタイトルショート ver

そこから得た経験や智見を凝縮したものを、

1冊の本として出しているのです。

ということは、

本来であれば著者が費やした金額分を、

読者も支払うのが自然といえます。

あくまで価値の交換にこだわるのであれば、

まあ、そんなことしたら出版ビジネスが成立しないので、

まずありえませんが・・・

ここであなたに知って欲しかったのは、

本1冊にはそれだけの価値が詰まっているということです。

レポートのタイトルショート ver

その本の何気ない一言に、

100万円の価値があったりするのです。

どうですか？

流し読みはもったいないですよ？

そういえば先ほど、

本には著者の費やした時間も含まれているといいました。

この意味自体はなんとなく分かるでしょう。

他に何か思い浮かびますか？

例えば、本には著者の人生が詰まっているとすれば、

レポートのタイトルショート ver

私たちは本を通じてその著者の人生を体感できるということになります。

もちろん、伝記や回顧録、自伝以外の本でもそれは可能です。

その著者が発する言葉自体が、著者の人生そのものだからです。

ということは、10人読めば10人分の

1000人読めばそれだけの人生を体感できるのです。

これは換言すれば、経験の擬制ができるということです。

擬似体験ということですね。

こういうことをいうと、

レポートのタイトルショート ver

「自分で直接体験しなければ意味がないのでは？」

という反論が聞こえてきそうです。

確かに、

百聞は一見にしかずという言葉にもあるように、

情報の最高峰は1次情報です。

ですが、

それはできる範囲で得ればいいのです。

私たちは1から電球を作る必要も、

アメリカの大統領になる必要も、

マフィアの世界に飛び込む必要もないのです。

レポートのタイトルショート ver

というか無理です。さすがに。

少し例が極端でしたが、たとえ擬似体験だとしても

意識次第で吸収力は変わってきます。

つまり他人事として読むのではなく、

自分ごと、すなわち当事者として読むのです。

もちろん深刻に考える必要はなく、

“自分ならどうするだろう”くらいのもので構いません。

これだけで大分変わります。

レポートのタイトルショート ver

この事実から、

読書をして何も得られないという人は、

そもそも読み方に問題があるとわかります。

意外かもしれませんが、

どれだけ読書が大切だといわれても**実際に行動に移す人間は少ないです。**

成人の71.2%が

月平均で0～2冊というくらいですから、不思議ではありません。

ほとんどの人が本を読まないのです。

ちなみに、

年収が高い人ほど読書家であるというデータがあります。

レポートのタイトルショート ver

こういうことをいうと、

お金があるから本を買えるのだろうと思ってしまいそうです。

しかし、それは誤りです。

お金を稼ぐ人はむしろ、

お金がない頃からなけなしのお金で本を買って勉強していたのです。

その結果、莫大な知恵の蓄積が富を生むことになりました。

1200円の本を7冊買ったとしても、支出は1万円にもなりません。

もし、この習慣を始めたなら、**それだけで上位30%入りです。**

レポートのタイトルショート ver

そして仮に、

月に7冊読むことを実践した場合、

1年と3ヶ月後には100冊読んだこととなります。

さて、

読書の累計が100冊を超えると少しずつ変化が現れます。

まず、表情が変わります。

これは、読書をすることで右脳左脳がバランスよく使われるためです。

どう表情が変化するかというと、

どこか知性を感じさせる落ち着いたものになります。

レポートのタイトルショート ver

信じられませんか？

読書をしている人ならわかるかと思いますが、

自分が読書家の場合、本を読んでいる人いない人がすぐに分かります。

それは表情であったり言葉だったりしますが、やはり表情ですね。

また変わるのとはそれだけではありません。

あなたの周囲の人間と話が、噛み合わなくなっていくます。

これはあなたが人間的に成長したからです。

そうするとあなたが周りの人にレベルを合わせてあげて

コミュニケーションをとることになります。

レポートのタイトルショート ver

だんだんと今までいた環境に居心地の悪さを感じ始めたら、

後一歩です。

いよいよ、

あなたが次のステージへ行く時がやって来ます。

先に答えを言ってしまうと、

この世界は本当にシンプルにできている、ということです。

貧富の差は、経済力が生むものではありません。

それは些末な問題です。

貧富の差は知性の差です。

レポートのタイトルショート ver

そしてここでいう知性とは、

学校の偏差値ではなく言葉の蓄積量です。

それまでの人生でどれほどの言葉を先人の至言を浴びてきたのか、

これに全てが凝縮されます。

だからこそ、

支配層こそ読書家で、その他大勢は本を読まないのです。

しかも、それはマタイの法則のごとく、

読書家ますます本を読みそうでない人は全く読まない

というスパイラルが発生します。

マタイの法則とは「富は持てる者により集中する」

というなんとも恐ろしい法則のことです。

これを読んでぞっとできた方は大丈夫です。

人生を変えるチャンスは残っています。

言葉を学ぶことは人類の宿命です。

この世界で一番弱い人間がなぜ動物界の頂点にいるかといえば

脳が発達しているからです。

そして脳の発達は、言葉によって完成します。

レポートのタイトルショート ver

つまり、言葉を学ばないのは、

人間としてのミッションを放棄していることになるのです。

まあ、ほとんどの人間が放棄しているのが現状ですが。

さあ、少しでも読書の重要性に気づけたなら

後は動くだけです。

では第1章のまとめとして、あなたにメッセージを贈ります。

- ・人生は言葉によって形作られる。
- ・人生で本当に必要なものは、言葉の貯蓄。
- ・私たちは普段発する言葉通りの人生を歩む。

「人生で大切なことは、全て本が教えてくれる。」

【コラム：多読か精読か】

読書においてよく出る議題が、多読か精読かという問題です。

答えからいいますと、**つべこべいわず多読をしてください。**

確かに、

何回も読むことで内容を刷り込んでいくということも大切です。

しかし、読書はたくさんすればするほど

知恵を増幅させるという効果を発揮するものです。

受験勉強のように1冊の問題集をやり込むといった

レポートのタイトルショート ver

特殊なルールは、読書ではそんなに当てはまりません。

読んで、読んで、とにかく読んでください。

最低、100冊。

本当はこれでも少ないです。

1万冊を実費で読んで、

それから読書をして世に出ている人もいます。

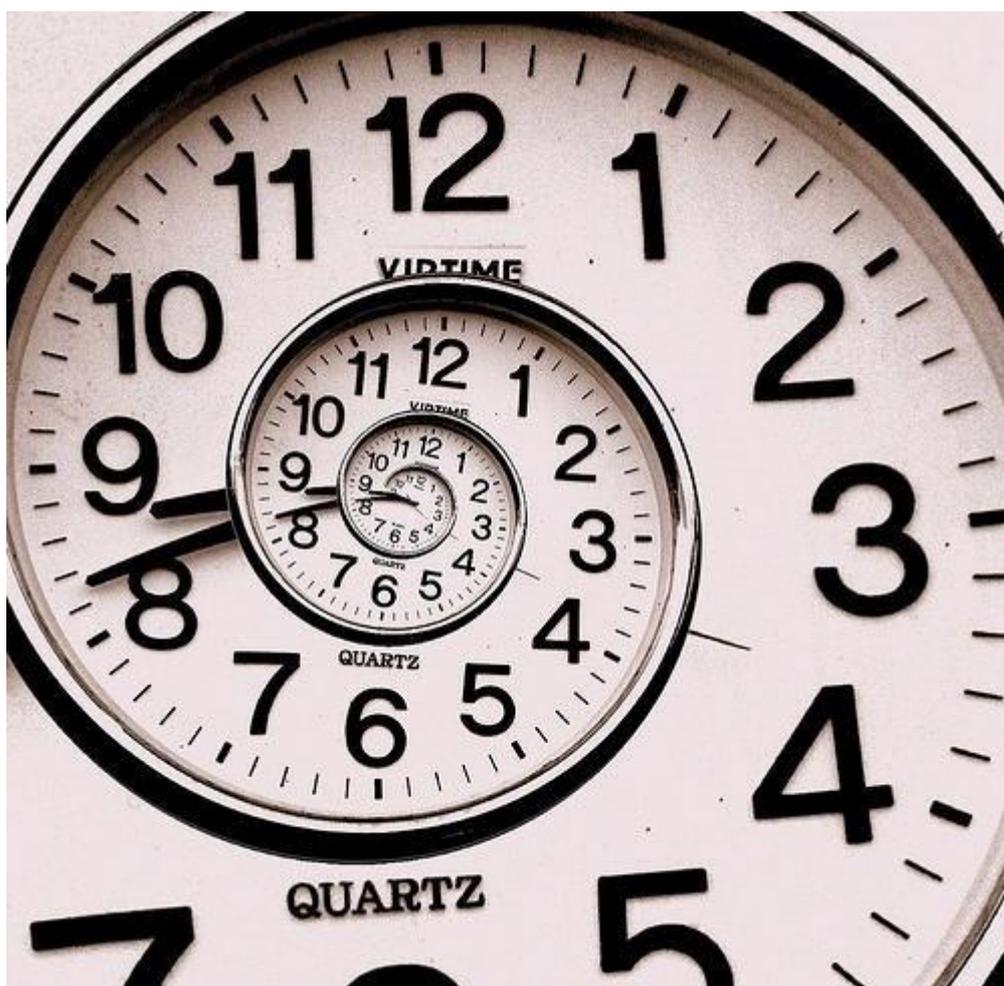
さすがにいきなり1万冊はキツイですが、

「とにかく5、6冊読んでオッケー！」

レポートのタイトルショート ver

にはしないでくださいね？

【第二章：時の支配者】



第2章では時間について見ていきます。

レポートのタイトルショート ver

とその前に、あなたは次のような

フレーズを聞いたことはありませんか？

「宇宙に比べたら、人間なんてちっぽけなもの」

というものです。

では、

どれくらい人間がミジンコなのかを確認してみましょう。

138億年

宇宙の年齢ですね。

80年

人間の大体の寿命ですね。

レポートのタイトルショート ver

タイトル通り時間に直すと、

宇宙・・・121兆時間

人間・・・70万時間

となります。

人間が生きる時間は、

宇宙の年齢から見たら5%くらいなんですね。

80年で人生一周として、

人間が宇宙の年齢を生きようとする、

なんと1億7000万周できます。

レポートのタイトルショート ver

ちなみに

母なる地球の年齢を1m とすると、

人間の歴史は**3 cm**しかありません。

だからこそ、

限られた時間を大切にしなければいけない！

という意見は正しいといえます。

論点がずれますが、

もし何か目標があってその達成に時間がかかってしまう場合、

この話を思い出してください。

目標達成までにかかる時間は、誤差に過ぎないのです。

レポートのタイトルショート ver

私たちは138億年生きられるわけでも、

無駄な時間があるわけでもありません。

それでも真剣に叶えたいなら、

生じた誤差を受け入れましょう。

お金・収益は本気次第で青天井ですが、**人生は明確に天井があります。**

70万時間しかないんです。

好きに使わずしてどうしますか？

意外に忘れがちなのですが、

前述の通り私たちに無駄にできる時間はありません。

自分の時間を殺すことは許されないのです。

ところが、

現状多くの人が他人のために時間を遣い日々を削って生きています。

“それが人生だ”

“人生なんてそんなものだ”

“常識人”からはこんな言葉が飛んできそうですね。

常識人・・・片腹痛いわぁ！！

何度でもいいですが、私たちの時間は限られているのです。

レポートのタイトルショート ver

好きなこと、

自分の本当にしたいことを置き去りにして、

他人の夢の奴隷になるのが大人であるならば

私は逆の道を探します。

ところで、

好きなことは趣味のことではありません。

仕事に関してです。

さて、とにかく、

1度しかない人生を妥協なく生きるには、

時間の価値を知ることから始めましょう。

レポートのタイトルショート ver

私たちは1秒ごとに命を削っているのです。

この本当の意味がわかれば、

遅刻がどれほど失礼なことかとか

くだらない事務作業がどれほど無駄か分かるでしょう。

それでもピンと来なければ、

それはあなたが洗脳されているからです。

洗脳？ 誰に？

厳密に言えば、

洗脳されてきたというのが正しいですね。

【隷属教育】

本章の趣旨とはずれますが、極めて重要な話なのでご了承ください。

前項で洗脳されてきたといいましたが、

いったい私たちはいつから、誰に洗脳されてきたのでしょうか？

答えとしては、教育であり、メディアであり

そしてこの国の空気そのものです。

たとえば、あなたは「お金持ち」いう言葉を聞いて、

あまり良い印象を抱かないのではないですか？

あなたはお金を持つことが、「悪徳」だと思っている節がありませんか？

レポートのタイトルショート ver

組織に属して働くことが、

当たり前だと思っはいませんか？

もし上記のいずれか、又は全てに当てはまるならば、

それが洗脳の結果です。

私もかつてはそうでした。

テレビに映される成功者を観るたびに、

“どうせ詐欺まがいのことをして稼いでいるんだろう”とか

“金持ちには口クな奴がない”

などと勝手に決め付けていました。

レポートのタイトルショート ver

これが間違いだったのです。

綺麗事を抜きにすれば、お金ほど大切なものはありません。

お金が全てを癒すわけではありませんが、

この世界の大抵の問題は、お金で解決できます。

お金の力を軽んじてはなりません。

貧者は富裕層を憎むのが常ですが、

彼らはお金持ちに養われていることに気づいているのでしょうか？

各種公的サービス、インフラ整備は高額納税者なくして達成されません。

レポートのタイトルショート ver

お金持ちは貴重なのです。

感謝することはあっても、批判するなどあり得ないのです。

お金を批判するということは、

お金を批判するということです。

当然、そのような考えでは

お金を稼ぐこともできず、時間の獲得すら怪しいです。

というよりも無理です。

悲しい話ですが、

自分の時間を獲得するためにはお金持ちにならざるを得ないのが

レポートのタイトルショート ver

現代の隠れた掟です。

ホームレスになるのもひとつの手ですが・・・

さすがに嫌ですよ？

【あなたの時間を解放する】

まずはこれを目指してみましよう。

一般的に、人は自由な時間を欲します。

嫌な会社勤めから解放されたいというのが分かりやすいテーマでしょうか。

ですが客観的に見て、**時間の切売りでは限界があります。**

レポートのタイトルショート ver

たとえ賃金が上がっていたとしても。

この時代において、

いつまでも経済力の獲得を「時間の切売り」に頼ってはお先が危ういです。

なぜなら、

切売りではお金の出処を他人が握っているのですから。

この事実は端からみて怖くないですか？

この手の話は大抵、

自分でビジネスしようぜ！ということなのですが、

(ネットビジネスの教材でもよくある文句です)

(でも本当にそういう時代なんです)

(煽りでもなんでもありません)

レポートのタイトルショート ver

(人生を他人に預けている場合ではないのです)

いざ乗り出す人は1%もいません。

「方法が分からない」

「失敗したらどうする？」

その思考の堂々巡りで、

結局次の日も同じ人生の繰返しです。

ご安心ください。

ほとんどの人間がその道を選びます。

ある意味当然です。

レポートのタイトルショート ver

でないとピラミッドの下層が崩れてしまいます。

気づいた人だけがすれば良いのです。

自分でも“嫌なことってんなー”とは思いますが、

ほんわかした話ばかりだとつまらないですからね。

問題は私が、あなたがどう生きたいかです。

ただ現実問題として、

“これまでのような働き方だとちょっとまずいかもね”

ということを述べました。

新旧の価値観が混在している今です。

レポートのタイトルショート ver

私たちは今狭間の中を生きています。

戸惑って当然です。

別に普通に雇用されたって生きていける。

起業して生きている人もいる。

ただそれだけのことです。

さて、途中で脱線しつつ時間の大切さを説いてきました。

今私は脱線といいましたが、

実をいうと**時間もお金もリンクしています。**

時間の大切さの話ではお金の話をしなければなりませんし、

お金を考えるなら時間を無視できません。

さて、第2章もそろそろ締めに入りましょうか。

いずれにせよ、私たちは自分の時間を好きに使う権力があります。

いや、義務とっていいでしょう。

天文学的な確率で生まれてきて、

その奇跡の体現者である私たちが死ぬまで偽りの時間を過ごす・・・

これは罪です。

レポートのタイトルショート ver

もちろん罰せられはしませんが、

倫理的犯罪といえます。

人は死が近づいたときに、

しなかったことを後悔するというデータがあります。

・あれをやってみたかったな・・・

・もう少し頑張れば、あれを達成できたかもしれない・・・

・本当はもっと違う生き方をしたかった・・・

はい、全く笑えません。

その人の時間・人生は2度と戻りません。

レポートのタイトルショート ver

仮に輪廻転生(生まれ変わり)があるのだとしても、

前世の記憶がない以上**その都度体感できる人生は一回きりなのです。**

どうですか？

あなたは自分の人生を生きる決心はついたのでしょうか？

自分の好きに生きるということは、

悪いことではなくむしろ当たり前のことです。

もちろん、人様に迷惑をかけてまでというのは許されません。

それは自由ではなく勝手というものです。

賢明なあなたならそこは酌んでくださいね。

レポートのタイトルショート ver

では第2章のまとめとして、あなたにメッセージ贈ります。

- ・自分の時間を1秒たりとも無駄にしないでください。
- ・何の成長も得られないものに時間を費やさないでください。
- ・私たちに無駄にしてよい時間など、10万分の1秒もないのです。

「時間の価値を知れ。あらゆる瞬間を享受せよ。」

【コラム・「時は金なり」は大嘘】

「時は金なり」、昔からあることわざです。

時間はお金に匹敵する価値がある・・・

レポートのタイトルショート ver

非常に含蓄のある言葉です。

ですがこのことわざ、

よくよく考えるとおかしいのです。

「時は金なり」を式に直すと、

「時 = 金」となります。

・・・。

お金と時間は本当に同価値ですか？

お金で時間は買えますかという話です。

レポートのタイトルショート ver

確かに、場合によってはそういうこともあるので、

一概に誤りとはいえませんが

もう少し先突き詰めて考えて欲しいのです。

本当に、時間とお金は等価かと。

冤罪で30代から70歳近くになるまで

刑務所に入れられ、

その後真犯人の存在が浮上したため

刑務所から出てこれた人の話をご存知ですか？

件の人はいわれのない罪に問われて、

人生の大半を牢に繋がれて過ごしたのです。

レポートのタイトルショート ver

裁判（再審）で戦えば、勝訴は大いに期待できるでしょう。

ですが、

仮にそこで数千万の賠償金を勝ち取ったとして、

本当に解決、チャラ、大団円といえますか？

いえませんよね？

彼は人生において最も輝きを放つはずだった

30代、40代、50代、60代を棒に振った、

いいえ、

厳密には棒に振られたのです。

もうその時間は帰ってきません。

レポートのタイトルショート ver

その年代ごとに得られたはずの知識、経験、出会い、感動、

それらをリアルに体感することはできないのです。

例が極端でしたが、

物事の本質を理解するには、

極端な例が最適ですので、ご了承くださいね。

さて、

あなたはこれでもまだ、

時は金なりと叫び続けますか？

【第三章：お金について真剣に考えよう】



読書、時間、と話してきましたが

やはりこのテーマに触れないわけにはいきません。

レポートのタイトルショート ver

お金については今も昔も多くの本が執筆されています。

「お金が全てじゃない」割にニーズが高いのは、

まあ、そういうことです。

これはちょっとした知恵ですが、

一般的に否定されていることほど、

悪徳とされているものほど、

人々は興味津々なのです。

例えば、不倫なんて最たる例です。

あなたはいかがですか？

レポートのタイトルショート ver

さすがに、

「お金がなくても生きていける！」

などとは考えていませんよね？

もしそうであるなら、

少し、私の話を聞いてみてください。

【現状理解】

正直、日本人いや、世界のほとんどの人は、

お金を持っていません。

たとえば100人いたら、

その中の10人が年収1000万以上で、

レポートのタイトルショート ver

その10人のうちの上位4人が

年収1億円以上といったところです。

つまり、お金持ちでなくても何ら恥ずかしいことではなく

むしろフツーのことといえます。

逆に、お金を持ち過ぎたがために失敗する例もあるので、

無理に持つ必要もないのかもしれない。

しかし、

ご存知の通り、これからの時代はそれを許してくれません。

残念ながら。

レポートのタイトルショート ver

20世紀は、

なんだかんだでお金がなくても生きていけました。

清貧が許された時代です。

特別お金があるわけではないけれど、

質素に暮らしていれば生活ができたのです。

で、21世紀はどうかといいますと・・・。

結論からいいます。

21世紀では特別お金がないなら、

まず生活ができません。

レポートのタイトルショート ver

最悪、生活保護です。

その生活保護も、財政が不安定な現代では

あまり期待できません。

税制度が変わり、労働環境が激変し

少なくとも悪い方向へ進んでいます。

確かに、株価の動きは好ましいようですが（それも最近は怪しい・・・）

実態に反映されているかといえば、という話です。

とにかく、中間層、中産階級のゾーンが薄くなり、

ボトムかアップかの両極端に別れつつあるのです。

レポートのタイトルショート ver

先日も最近の購買活動についてのニュースが放送されていました。

ある富裕層は高級外車のディーラーへ。

ある一般家庭は中古の販売店へ。

まあ演出上極端にしている面もあるのですが、

決して行き過ぎた演出ではありません。

これが現実です。

これからくる時代がどういう姿をしていると思いますか？

年収1億円の富裕層と、

年収100万円の貧困層で構成される社会です。

レポートのタイトルショート ver

あらら、薄かった中間層が消滅してしまいました。

これも極端な演出でしょうか？

前項の冒頭でお話した通り、

いま世間は急激な変化の最中にあります。

税制度でいえば社会保障費、消費税等々の上昇。

労働環境でいえば低賃金外国人労働者の増加、

労基法を無視した雇用状況、

派遣社員の問題等々・・・

まあ目まぐるしいわけです。

レポートのタイトルショート ver

また労働系でいえば、コンピュータの発達も見逃せません。

コンピュータの発達により、

事務作業、製造作業、などの業務に人間の関与が不要になります。

今までは専門職が独占していたものが、

CD 一枚で事足りる世界です。

下手すりゃ戦争も全自動です。

話が逸れてしまいましたが、

単純に技術の発達によって人間の仕事が減っているのです。

レポートのタイトルショート ver

人間の仕事が減っているのですから、

仕事にあぶれる人が出て当然です。

また、仕事があっても、外国人労働者と競争です。

しかも、**向こうは低賃金で済むというオプション付きです。**

さて、あなたが経営者ならば、どうしますか？

どちらの労働力を選びますか・・・？

閑話休題。

本当に、お金がなくても大丈夫でしょうか？

レポートのタイトルショート ver

少なくとも税金は払いましょうね。

え、払えない？

では、資産を強制執行にて差し押さえさせていただきますね。

少し脅かしすぎたでしょうか。

でも、救済措置を除けば最悪、法律の手続きとしてはこうなります。

夏休みの宿題はやらなくても逃げ切れたかもしれませんが

税金はそうはいかないのです。

労働環境が変化してこれまでのようにお金を得られない。

レポートのタイトルショート ver

それでもこれまで以上の納税を求められる。

それが今の社会です。

狂っていますが、現実そうになってしまいました。

この手の話は、

「結局国が悪い！」に終始してしまいがちなのですが、

私はそうはしません。

この教材のテーマは、あくまで「21世紀を生きる術」です。

この点、お忘れなく。

レポートのタイトルショート ver

実は21世紀はある時代といわれています。

格差社会・・・はさっき話しましたね。

正解は個人の時代です。

組織に属さずとも自分で生計を立てている人々をご存知ですか？

八百屋さん以外でお願いします。

思いつきましたか？

一応の答えとしては、

いわゆるノマドワーカーですとか、

レポートのタイトルショート ver

フリーエージェントといわれる人種です。

彼らは自分自身でコンテンツ(商品)を生み出し、

価値を提供し、収入を得て生活しています。

例えば、

- ・電子書籍

- ・物販

- ・音声教材

- ・塾

- ・セミナー

レポートのタイトルショート ver

- ・カウンセリング

- ・コンサルティング

- ・各種レッスン

などなど。

もちろんこれにとどまらず、

他にも占いやアフィリエイトなど、「もうなんでもござれ」です。

ちょっと想像しにくいかもしれませんが。

実際、完全に認知されているわけではないので、これも仕方ありませんね。

レポートのタイトルショート ver

(前述した個人の時代という言葉。

実は私たちのいる情報業界でよく使われる文句です)

前述した通り、

私たちの生活状況は好ましくない方へ進んでいます。

なるほど国家の半分は“厳しさ”でできているようですね。

バファ〇ンを見習ってほしいものですが・・・

さて、そんなわけで、

とうとう国に頼っている場合ではなくなりました。

レポートのタイトルショート ver

あなたの生活を変えるのは、

国や会社ではなく、私自身であり、あなた自身なのです。

そう、個人の時代とは、

胡散臭いネット起業家の作った煽り文句ではなく、

21世紀そのものを形容する言葉なのです。

これは私の考察ですが、

人類自体が進化を迫られているのかもしれない。

ちょうど、

子供が自立して大人になっていくような状況です。

レポートのタイトルショート ver

それまでは親（国）に頼りっぱなしだった子供（国民）が

親から独立して生計を立てて生きていくように。

そして、これからは個人の時代であるということは、

戦前に生まれ現代を生きておられる作家さんも述べているほどです。

もう、流れとして受け入れるしかありません。

大丈夫です。

ガラケーからスマホに変えられたではないですか。

最初は無理だと思ったフリック入力も、

今は逆に、それ無しが考えられませんよね？

レポートのタイトルショート ver

今回紹介した今後の社会の形について

私のいっていることが嘘だと思うなら、そのまま世界を傍観していきましょう。

もはやお金を無視している場合ではありません。

テレビに映るセレブを妬んでいる場合ではありません。

私も、あなたも、お金を稼がねばならないのです。

特に男子。

ここで男性諸氏に伝えます。

これまでのような考え方を捨てましょう。

レポートのタイトルショート ver

堂々とお金を稼いでいきましょう。

途中の項で個人の時代の話をしました。

それでも国内の企業が消滅するわけではありません。

企業に勤めているなら、堂々と社内で出世を目指してください。

とにかく、これからは all or nothing 時代です。

衝撃に備えてください。

あなたは大丈夫です。

今、わたしの話を聞いたわけですから。

レポートのタイトルショート ver

では第三章のまとめとして、あなたにメッセージを送ります。

- ・お金は人が運んでくる。
- ・お金が集まる体質にするには、人が集まる人間になること。
- ・そのためには、自分をブランドにしてしまおう。

「桃李言わざれども下自ずから蹊（こみち）をなす」

【コラム：「お金大好き宣言」のススメ】

「お金なんて・・・」

という思考やそういう旨の発言が多い場合、

残念ながらお金はあなたの下には来てくれません。

お金は、

お金が好きなのところにやって来ます。

厳密にいうと、

真剣にお金が好きだと言える人のところに金は殺到するのです。

人間と同じで、

自分に興味を持ってくれないところに

金は進んで来るほどお人好しではないのです。

不思議な話ですが、

これは人間社会に流れる裏の掟です。

レポートのタイトルショート ver

こういうことをいうと、

「お金が好きだなんて卑しい」

と考える人もいるでしょう。

そういう人はお金の力を舐めすぎです。

頭のどこかでお金を否定していると、

何度でもいいますがお金は手に入りません。

本当は口に出して

「お金大好き」といってほしいところですが、

いきなりは厳しいですね。

レポートのタイトルショート ver

というわけで、

まずは頭の中でお金大好き宣言をしましょう。

お金の力を真正面から受け入れられたなら、

億万長者まで後少しです。

本当です。

0から1が大変なだけで、それさえクリアすれば、

その後は100だろうが1000だろうが思いのままです。

【第四章：社会の裏の裏の、そのさらにウラ】



この章では、

社会のリアルから人間の本質に至るまで、幅をもたせて話していきます。

レポートのタイトルショート ver

さて、

私たちの住むこの社会は平等な社会でしょうか？

これまで三章に渡り語ってきましたが、

さすがに平等だとは思いませんよね。

もちろん、私がいうまでもなく、

あなたも肌感覚で理解していたかもしれません。

この世界は平等ではありません。

明らかに機会の格差があり、それによって様々な差が生じます。

家庭、教育、経済・・・常に持てる者と持たざる者に分かれます。

レポートのタイトルショート ver

前述したマタイの法則を覚えていますか？

持てるものに富が集中するという、あれです。

あれこそが世界のリアルです。

水は高きから低きに流れますが、

なぜかお金に関しては低きから高きに流れます。

明らかに自然法則に逆らっていますが、

そもそもお金自体が人工物である以上、

こういうウルトラC もあり得るのです。

レポートのタイトルショート ver

ということは、

トリクルダウンなどありえないことが理解できます。

トリクルダウンとは、簡単にいえば富の再分配のことです。

お金持ちが富を得れば、

やがては貧困層にもお金が流れ好影響が出るというものです。

イメージとしては、シャンパンタワーですね。

上からシャンパンを注いで、

溢れたシャンパンが下のグラスに移っていく、あれです。

レポートのタイトルショート ver

ところが、人間社会では一番上のグラスが大きすぎて、

なかなか下に降りてきません。

それどころか、

一番上のグラスの持ち主は、

一杯になったらそのグラスを取って別のテーブルに行く始末です。

現実に言い換えると、

取り分が減ること（主に税金のせい）を恐れたお金持ちが、

海外に移住してしまうことを表現しています。

税金が日本よりも低い、

タックスヘイブンと呼ばれるところです。

レポートのタイトルショート ver

結局、選択肢が豊富なお金持ちが得をするというのが、

この社会の真実です。

では、それ以外の、

少なくとも現時点で特別お金持ちではない人々は

ただ取り残されるのを見ているしかないのでしょうか？

いえ、そんなはずはありません。

というより、そうであってはなりません。

私たちには幸せになる権利があります。

好きに生きる権利があります。

レポートのタイトルショート ver

というより、第一章でも話した通り、

好きに生きる義務があるのです。

この文章を書いている私、

そしてこれを読んでいるあなたは、少なくとも日本人です。

確かに、日本は税金が高かったり、

周辺諸国の脅威にさらされたりと、

あんまり良い国でもなさそうです。

しかし、いいですか？

今から話すことは口外無用です。

レポートのタイトルショート ver

まず、よく国の借金が1000兆円だといわれます。

毎年増えています。

普通の国なら破綻ですよ。

でもなんで破綻しないんでしょう？

実は、我が国の対外純債務は0円です。

どいうことかといいますと、

外国に対して借金は無いということです。

レポートのタイトルショート ver

1000兆円の借金はいくまで国民に対してのものです。

家族間のお金の貸し借りと一緒にです。

つまり、対して問題ではないということです。

もちろん完全に大丈夫な訳では無いですが、

いくまで家族間のやり取りと同じですから、

差押えや強制執行はまず無いわけです。

そして、次が更に重大なのです。

我が国は、毎年予算を組みます。

レポートのタイトルショート ver

大体100兆円です。

しかし、それだけでは足らんということで、

これまた毎年特別予算を組みます。

これが約200兆円です。

不思議に思いませんか？

足りない足りないいう割に、

倍の特別予算を組める体力はどこから来るのでしょうか。

しかも、この特別予算の出処は、税金でも国債でもありません。

レポートのタイトルショート ver

申し訳ありませんが、これ以上は止めておきますね（お察してください）

さて、

とにかく国家の財務体力は相当なものというのにはわかりましたね？

ということは、よっぽどのことが無い限り、

国が終わることはありません。

つまり、

私たちは自分のことに専念できるということです。

これがどれほど凄いことかわかりますか？

国内で武力紛争はなく、格差がこそあれなんやかんや生活はできる。

レポートのタイトルショート ver

しかも、国の財務体力は強靱なものときた。

私たちは国に感謝しなければならないくらいです。

後は、自分の裁量次第ということですよ！

さて、とはいうものの、日本はお金が稼ぎにくい環境です。

それでも、頑張り次第で

上位層に食い込むくらいにはできます。

そこは勘違いしないでくださいね。

日本人はどこかくたびれています。

レポートのタイトルショート ver

特に男が弱くなりました。

草食男子という言葉を、

昔の日本人に聞かせたら失笑をくらいそうです。

でもですね・・・

時代がどうなろうが、“狩り”は男の役目なのです。

まさか、女性に養ってもらうなんて、

考えていませんよね？

少なくとも男であるなら、

しっかりと稼ぐ力を身につけましょう。

レポートのタイトルショート ver

正直、その方が楽しいですし、女性にもモテます。

こういうことをいうと、

「それは自分に魅力があるからではなく、

自分のお金に集まっているだけだ！」

という言葉が飛んでくるのですが、

何をおっしゃいますかという話です。

財力は男のアイデンティティーのひとつではありませんか。

それも忘れてしまったのですか？

レポートのタイトルショート ver

多分、前項の文章を若い人たちに見せたら、

時代錯誤だとか、逆行しているともいわれそうです。

今は若者の〇〇離れが深刻です。

高級外車、高級時計、など、

すっかり人気なくなりました。

ふつーでいいじゃん。

飾らなくていいじゃん。

という感じです。

レポートのタイトルショート ver

もちろんギラギラした奴らも一定数いますが、

かなりの少数派です。

今の20代は悟り世代なのです。

でも**悟った気**でいる彼らは、

私が序盤で述べてきたことを知りません。

後々焦るのは目に見えています。

というわけで、今の20代は本当におとなしいわけです。

でも、本当は20代に限った話ではなくて、

20～30代の若手世代にこの傾向があるともいえます。

レポートのタイトルショート ver

次代を担うはずの世代が、全くギラギラしていない・・・

これではさすがに心配です。

でもこれ、無理もないのです。

バブル崩壊後のお金のない時代を育った今の若い世代は、

「お金がなくて当たり前」という考えを持っているからです。

そして、

お金を手にするためには？と聞かれれば、

「（会社で）働く！」

という結論になるわけです。

レポートのタイトルショート ver

断っておきますが、

私は会社で働くな！とっているわけではありません。

あくまで客観論です。

さて、これまで述べてきたことから分かるように、

全体的に熱量があまりないのが今の若者の特徴です。

ということは、

相対的に周りのレベルが低いので、

本当に頑張り次第では突き抜けることが可能です。

なぜそこまで言い切れるのか。

レポートのタイトルショート ver

- ・まず今の人間は世代を問わず読書量が少ない。
- ・そして、ただでさえ読書をしない若者世代は、上昇志向もない。

いかがでしょうか？

あなたはこんな奴らに負ける気がしますか？

しませんよね？

少なくとも、

私の言葉を聞いているあなたは大丈夫です。

なぜならあなたには学ぶ意識があるからです。

レポートのタイトルショート ver

おそらくは紙媒体の本もお好きでしょう。

学ぶことを捨て去らなければ、あなたはどこまでも成長できます。

そうすれば、今度はあなた自身が、

世の中にアクションを起こす時がきます。

そして、そのアクションの報酬として、富が手に入るのです。

その富を元に更に学び、また発信し、そして富を得る。

「学びて富み、富みて学ぶ」

この黄金のサイクル入れれば、最早あなたを邪魔する者はありません。

レポートのタイトルショート ver

望まなくともお金持ちになれます。

そして、これが本当の「お金持ちのなり方」です。

最初からお金ありきではなく、

気がついたらお金持ちになってしまったという、

現在完了形がベストということです。

【「当たり前」を捨てに行こう】

- ・ お金がなくて当たり前。
- ・ 贅沢も必要ない。
- ・ 出世も・・・別に・・・。
- ・ それに、お金があっても幸せとは限らないし。
- ・ 勉強もいいかな。検索で一発っしょ！
- ・ 読書？ 意識高いねー(笑)

今のあなたなら、上記の戯言をひとつずつ粉碎できます。

レポートのタイトルショート ver

さて、私がこれまで述べてきたことは、

お世辞にも常識的とはいえませんね。

普通にしていたら、まずしない発想です。

普通にしていたら、まず聞かない話です。

私も普通で良いなら、本当はその方が良いです。

でも、これからの時代はその普通が許されないのですよね？

覚えていますか？最初の頃の章で話したことを。

21世紀で、資本主義が完成を迎えます。

すなわち、中間層の消えた“上か下か”の世界です。

否が応でも、知恵を絞らなければいけない社会です。

そうでもしないと、あっという間に急降下してしまいます。

急降下しても最低限の生活はできるのかもしれませんが、

これも冒頭の章でお話した通り、そうは問屋が卸さないのです。

いずれにせよ、

「何とかして頑張るぞ！」

という気持ちさえ持ってくれば、私はひとまず安心です。

レポートのタイトルショート ver

ただ間違っても、

「平凡でいいや」

なんて寝ぼけたことは考えないでください。

だって、その平凡が無くなってしまふのが、この21世紀なのですよ。

特に、特に！

男子！！

男性の役割は狩りと家族を守ることです。

これは10万年超しのDNAに刻まれた、

オスのミッションなのです。

レポートのタイトルショート ver

ですので、

昔の男がマンモスを目指したように、

今の私たちは

「どうにかして稼いでやるぞ！」という気概を持ちましょう。

そのためには、もう何度でもいいですが読書をして

知恵を身につけましょう。

大人の頭の良さは、ズバリ語彙力です。

真剣に学びの意識を持って読書をすれば、

必ず、あなたは賢くなります。

そして、“社会を渡っていくための頭の良さ”を手に入れます。

レポートのタイトルショート ver

確かに、頭が良くなるとはいっても、

本を100冊読んだところで

数学 III・C を解けるようにはなりませんし、

英語の長文読解ができるようになるわけでもありません。

ですが、本を100冊でも読めば、

少なくとも「自分は人生をどう生きればいいのか」くらいのことは

次第にわかってきます。

そして、断然こっちの方が重要です。

本当に。

レポートのタイトルショート ver

読書の目的は知恵の獲得もそうですが、

「自分を解放すること」 も含まれます。

読書を真剣にすると、

自分の思っていた常識こそ、本当は非常識だということが分かり、

逆に、(もう成功という言葉を使いますね)

成功したければ世間の逆を行くしかないということが、

細胞レベルで実感できます。

常識の鎖を破壊しましょう。

【そして、親の言語環境を超える・序論】

親の言語環境？

私の著書では度々話すことなのですが、多分初耳ですよね？

私たちが最初に経験する社会は家族です。

私たちは、成長の過程で一番長い時間を家庭で過ごします。

そして、ここでどういう“教育”を受けたかによって、

その子の人生に対する価値観が形成されます。

教育といっても、

親から直接あだこうだと教えを受けるわけではありません。

その家庭環境そのものが、教育なのです。

ところで、こういう話をすると、

裕福な家庭では教育が行き届いていて

貧乏な家庭は・・・という話になりそうですが、

そうではありません。

もちろん経済的豊かさが教育の質に関わってくることは否定しませんが、

私がいいたいのはそんなことではないのです。

レポートのタイトルショート ver

むしろそれ以前の問題です。

親の言語環境、そろそろ本題に入りましょう。

【そして親の言語環境を超える：本論】

突然ですが、

あなたは「考える」という動作をするとき、体の**どの部位で**考えますか？

当然、頭、つまり脳で考えますよね。

ところで、“何で”考えていますか？

レポートのタイトルショート ver

映像などで考えるときもあるでしょうが、

ほとんどの場合、「言葉」、ですよね？

さて、あなたその言葉を、どこで手に入れましたか？

聞き方を変えましょう。

誰から手に入れましたか？

もうお分かりですね。

親です。

レポートのタイトルショート ver

すごく当たり前すぎて、

「バカにしてんのか！」と怒られてしまいそうですが

この事実をまず確認することが、極めて重要なことなのです。

私たちは“親の言葉”を基にして、

言葉を話し、その親の言葉で思考しています。

親の言葉はその子のマインドそのものになるのです。

なんとなく分かってきましたか？

レポートのタイトルショート ver

簡単な例として、

お金や富に否定的な親の下で育った場合、

その子もその考えを継承します。

逆も然りで、

お金に肯定的な親の下で育った場合、

やはりその子は、

お金に肯定的な考えを持つようになります。

上記の2つの例はなんらおかしいことはなく、

自然なことです。

レポートのタイトルショート ver

動物が初めて見たものを親と認識するのに似ていて、

人間の子は初めて触れたその考えが当たり前と認識します。

そりゃそうです。

反対概念を知らないわけですから。

そして、その中で20年近く過ごせば、

もう親の考え方が浸透しています。

これが良いものであれば問題ありませんが、

悪い場合はもう最悪です。

レポートのタイトルショート ver

その人に強烈なショックがない限り、

パラダイムシフト、

つまり物事に対する基本的なスタンスが変わることはありません。

だからこそ、一旦フラットになる必要があるのです。

親の言語環境から飛び出し、

あなた自身の言語環境を構築しなければなりません。

そして、これは裕福な家庭で育った人も同じです。

レポートのタイトルショート ver

自分の言語環境を創る目的は、

場合によっては貧しい言語環境から脱出するのもそうですが、

何より、子のミッションである親を超えるというのが、

本来の趣旨です。

そうしてその子が次代を築き、

今度はその子の子世代が、親を超えようと頑張る。

これが本来のあるべき形です。

レポートのタイトルショート ver

あるべき、としたのは、

- ・ 実際それ通りにできている人が多いとは思えない

- ・ 多くの人は、そもそもこのミッションを知らない

と私は考えるからです。

本当に知っていれば、

まず犯罪が起きるはずがありません。

かくいう私も、

このミッションを知ったのは20そこそこの時でしたので、

今でこそあなたにお伝えしていますが、

元はといえば後発組なわけです。

レポートのタイトルショート ver

でも、今は自分の言語環境を構築できています。

ちなみに、私が育った言語環境はどうだったかというと、

まあ、悪くはありませんでした。

ただ、あのまま私を変えようとしなければ、

今あなたがこの本を手にすることはありませんでした。

つまり、そういうことです。

そろそろ、この章もまとめに入りましょうか。

レポートのタイトルショート ver

第4章では社会について幅広く見てきました。

いろんな話をしましたので、

あなたは混乱しているかもしれません。

ですが、変な言い方ですがそれでいいです。

筋肉発達のために筋繊維の破壊が必要なように、

幼虫が成虫になる前にサナギの中でドロドロになるように、

変革には破壊が伴うのです。

(2つ目の例がグロかったですね)

レポートのタイトルショート ver

何だか危ない思想家の発言みたいになってしまいましたが、

どうぞお気になさらず(私は至ってフツーの人です)。

もし、あなたが既に私と似た考えの持ち主であった場合、

私がこれまで話してきたことは、

大体が肯首できるものだったのではないのでしょうか？

逆に、そうでない場合は、

納得できないことの方が多かったかもしれません。

怒りのメールを送りたくなったかもしれません。

レポートのタイトルショート ver

ですが、私があえて時間を割いてこの文章を起こしたのは、

いずれにせよあなたに伝えるためです。

どうしても伝える必要があったのです。

これについては後ほど。

え？終わりませんよ。

あ、でもあと1章くらいかな・・・

さて、第4章のまとめに、

あなたにメッセージを贈ります。

レポートのタイトルショート ver

- ・この世界が不平等であることを受け入れよう。
- ・とっとと親の言語環境を飛び出そう。
- ・21世紀は、【「自分」で創る】がミッションの時代。

「世の中の“常識”に何も自分から合わせる必要はない」

【コラム・【極秘】これから来るビジネス】

2000年～2010年：コンピュータの隆盛の時代

2011年～2020年：健康・美容の外道を磨く時代

2021年～2030年：CCTC の黄金時代

2031年～2040年：スピリチュアル・魂 など、

いよいよ人類は精神世界へ。

上記に挙げたものは、

その時代で中心になるビジネスのジャンルを挙げたものです。

レポートのタイトルショート ver

そうすると、

今は外面を磨くビジネスが美味しいようです。

そういえば、

最近は筋トレの CM が目立ちますね。

少なくとも2020年まではこの波が続きます。

問題はそこからです。

10年ごとに区切ってはいますが、

トータルでいえば、

2021年から2040年までの20年間は

内面の時代です。

内面を磨くことに重きをおく時代です。

あ、CCTCの説明がまだでしたね。

これは、

コーチング

カウンセリング

セラピー

コンサルティング

のことです。

レポートのタイトルショート ver

いずれも、人対人のビジネスです。

デジタルが究極の形になった後は、

アナログが進化するということです。

いらん仕事はコンピュータに任せて、

本当に大事なことを人が引き受けましょうということです。

今から話すのは考察ですが、

今後の100年は、技術革新もさることながら

人間の倫理的進化が中心になってきます。

レポートのタイトルショート ver

今はなんとなく受け入れられていない

スピリチュアルな世界の話も、

この頃にはむしろ当たり前になっています。

今のビジネスでいうと、

ファンビジネスやコミュニティービジネスが

その「はしり」となりえるのかもしれませんが。

末尾を推量にしたのは、

ファンビジネス等が必ずしもスピリチュアル系ではないからです。

ただ、片鱗があるのは事実です。

レポートのタイトルショート ver

あ、誤解があるといけないので

もうひとつ申し上げておきますと、

私がこの本で読書を勧めているのは

これから来るビジネスにマッチしているからとか、

そういう理由ではありません。

確かに、結果として、

読書などを通じて言葉を真剣に学んでいけば、

いずれ件の時代がきた時にビジネスに活かせるでしょう。

レポートのタイトルショート ver

しかしそれは幸運な副産物でしかなく、

私はあなたに、

あくまで人間的成長の手段として、

また人のミッションである

知恵の獲得及び改善・進化を主軸として

言葉の学びに取り組んでいただきたいのです。

最終章：まだいろいろ話します。

【少しまとめると・・・】

初めに読書の重要性を説き、お金について考え、

今ある社会についての理解を深めました。

とりあえずは、

現時点で私があなたに伝えたいことは全て伝えました。

この章では、

それらの補足プラスおまけ的立ち位置で進もうと考えています。

レポートのタイトルショート ver

準備はよろしいですか？

【10年前も10年後も同じ】

意外に思うかもしれませんが、

世の中に出回っている本、

特にビジネス書や啓発書のジャンルでは、

内容としてそれほど新しいものは出てきません。

例えば、10年前に出された仕事術についての本と、

最近出された同種の本は、述べていることは大体同じです。

レポートのタイトルショート ver

これは、作家が盗作しているわけではなく、

ごく当たり前のことです。

まず、人間社会において重要なことって、

今も昔もそんなに変わりません。

変わるとすれば、“伝達手段”や“伝達の態様”です。

紙媒体から電子媒体へ。

企業から個人へ。

レポートのタイトルショート ver

本編でも述べたとおり、今は個人が輝ける時代です。

始めようと思えば、

今すぐ人に伝えることができます。

ところで、変わらないはずの人間社会の本質を、

なぜ定期的に別の人が伝えるのか。

ここが、最初に話した知恵のヒントに繋がります。

レポートのタイトルショート ver

例えば同じ趣旨のメッセージだとしても、

出てくるフィルターが異なれば、**それはもはや別の形をしているのです。**

例えば車でもたくさんの種類がありますよね。

本質は走るということだけなのに、

フィルターが異なれば全く違うものになります。

それと同じです。

先ほどの仕事術の本でいえば、

10年前のものは仕事術という知恵の種 (A)から、

その作家が考えた「U,N,O」という答えが生み出されました。

レポートのタイトルショート ver

今出されている仕事術の本は、

仕事術 (A) から

「R,P,E,C」や「Q,B,L,V」という構成がありうるのです。

なぜこうなるかといえば、

人によって経験や考え方が異なるから、です。

だからこそおもしろい。

完全に同一になるなどあり得ません。

これは、指示された命令をこなすだけの

コンピュータには真似できないことです。

レポートのタイトルショート ver

私たちはある意味、

エラーを起こして新しいアプローチを生み出しているのですから。

コンピュータでのエラーは排除の対象ですが、

私たちのエラーは歓迎すべき「知恵の讃美歌」なのです。

【お金の教育】

お金については語り尽くしたと思ったのですが、

ひとつ大事なものを忘れていました。

今から話すのは考え方というよりは、**単なる事実です。**

レポートのタイトルショート ver

私たち日本人は、「お金の教育」を受けていません。

そんなことをしたら、

皆が自分自身でビジネスをするようになり、

素直に就職してくれなくなるからです。

言い方を変えると、

黙って雇用されてくれなくなる、ともいえます。

しかし、これまた極論ですね。

レポートのタイトルショート ver

仮にお金の教育を施したとしても、

全員が起業の決心をするわけがありません。

10人いたら1人いれば良い方です。

やはり、

自分でビジネスをするというのはそれなりのリスクがあります。

リスクを取りたがらないのが普通です。

そもそも人間も動物である以上、リスクを回避して当然です。

レポートのタイトルショート ver

なのにリスクを顧みない層がいるのは・・・

ある意味イレギュラーです。

さて、

お金の教育は何も起業術にとどまりません。

例えば不動産、株式への投資も含まれます。

むしろこちらの方が大切です。

ある程度の技術が身につけば、完全なる不労所得の完成ですから。

レポートのタイトルショート ver

さて、

今したような話、あなたは学校で習いましたか？

習っていませんよね。

その差のためなのか、

40～50代で1億円以上の資産を持つことが海外では当たり前ですが、

日本では・・・まあ、ね。

【宇宙と人のテーマ】

私たちは日本に住んでいます。

もう少し範囲を広げれば、

私たちは地球に住んでいるともいえます。

そして、そんな地球、それを含む太陽系は

宇宙の中にポツンと存在しています。

宇宙を理解するということは、

まさに、この世の理を理解することに繋がります。

レポートのタイトルショート ver

大自然を含む宇宙のテーマは、

調和やバランス、循環が当てはまります。

どこかひとつに留まることなく、

ありとあらゆるものが誕生と消滅創造と破壊を繰り返します。

一片の塵が星となり、

その星はやがて塵へと還ります。

想像もつかない壮大さです。

当然、宇宙の一部たる私たちも、

この理を継いでいます。

レポートのタイトルショート ver

例えば、私がこうしてあなたに文章を書いているのも、

実は「バランス」の為せる業なのです。

私が得た知恵をあなたに伝えることで、

知恵の循環を発生させました。

また、私個人に焦点を当てれば、

知恵の吸収と放出をしたことになります。

宇宙のテーマにかな適っていますよね。

さて、宇宙のテーマは調和ですが、

人間は人間でテーマがあります。

レポートのタイトルショート ver

それが知恵です。知性と表してもいいでしょう。

動物の世界で最弱の人間を地球の頂点に押し上げたのは、

知性の獲得があっただけです。

そして、私たちは世代ごとに、

それをブラッシュアップしていくというミッションを負っています。

知恵のステージを止めてはならないのです。

あくまで止めるならば、

その先に待つのは後退であり、消滅です。

レポートのタイトルショート ver

後退や消滅という結末も、ある意味でバランスのひとつです。

しかし、それはいただけません。

あくまで、進歩を志向しましょう。

知性こそ全てです。

そして、その知性を究極のものにしたのが、

言葉の存在です。

「初めに言葉があった。

言葉は神と共にあった。

この世に存在する全てのもので、言葉によらないものはなかった。」

レポートのタイトルショート ver

とある宗教に伝わる言葉です。

私はこの宗教を信仰しているわけではありませんが、

この言葉には大いに共感します。

言葉の力は強烈です。

言葉の扱いひとつで、人生を好きに創造できます。

逆も然りです。

言葉の扱いひとつで、人生を台無しにできます。

言葉は、本当はとてつもない能力を持ったものなのです。

レポートのタイトルショート ver

気づいている人はごく少数ですが。

ある作家さんいわく、

人は、普段口にする言葉通りの人生を送るとのことです。

そして、その言葉は、どこで手に入れるのでしたっけ？

親からですね。

親の言葉が間違っただけなら、

その子の人生も同じクライマックスを迎えます。

宇宙のテーマと人間のテーマ、

上手に使いこなして、あなたの人生を思い通りに描いてみましょう。

【調和の話でもうひとつ】

私はこの本の中で

本を読みましょうとか知恵をつけましょうとか、

そんなことを語ってきました。

ところであなたにひとつ、

注意しておかねばならないことがあります。

読書をして、たくさんの言葉を浴びると、

当然、自身に質の良い知性が身に付き

人間的に洗練されたものになっていきます。

レポートのタイトルショート ver

しかし、同時に、「闇」も増大します。

つまり、あなたの中の光が輝きを増すほど、

ダークサイドも潜在的にはありますが増長するということです。

これもバランスの理の一環です。

でも怖がる必要はありません。

そんなものはコントロールできます。

レポートのタイトルショート ver

むしろ、闇の部分を否定するのではなく、

自分の一部としてきちんと受け入れましょう。

カッコいいイケてる部分も自分。

ダサくてカッコ悪い部分もまた自分なのです。

【成功とは習慣】

と、私は最近思うのです。

成功はガツガツ挑んで勝ち取るもの、

と最初は思っていたのですが、それではどう考えても長続きしません。

レポートのタイトルショート ver

人生は短いようで地味に長いのです

「できれば安定して成功を納めていきたい」

そう思った時に降ってきたのが成功は習慣という言葉です。

あ、でも、こんな私が思いつくくらいですから、

既に誰かが思いついているかもしれません。

たった今グーグルで調べたら、

成功“者”の習慣というものがヒットしました。

成功自体を習慣にするという趣旨のものはありませんでした。

レポートのタイトルショート ver

どうやら私が一番乗りのようです。

まるで呼吸をするように、

成功を収め続けるにはどうすればいいか。

私は淡々とすることが鍵だと考えます。

内に熱く滾(たぎ)るものは忍ばせつつ、

しかし表面には出さず冷静でいる、ということです。

熱くなったら負け、ムキになったら負けです。

レポートのタイトルショート ver

成功前夜、何が起きるか。

実は、特に何も起きません。

気持ち悪いくらいに落ち着いています。

“全て”が整っているので、何らの準備も要らないのです。

先ほどの「淡々と」とも重なりますが、

結局は「コンスタントにこなしていけるか」なんですよ。

気分が良い時に頑張れるのは当然です。

重要なのはあまり気乗りしない時にどう行動できるかです。

レポートのタイトルショート ver

プロフェッショナルとは、

絶不調のときに“一般人の最高峰のパフォーマンス”が出せる人

ともいいます。

華やかとは対極の泥臭さが重要ということです。

ひたすら積み重ねていく。

これができるか否かを決定します。

本当の意味で今述べてきたことを習慣化できた場合、

あなたの前にもはや敵はいません。

無敵です。

【現状を変えたければ、笑っている場合ではない】

結論からいいますと、

現状を変えたければ笑っている場合ではありません。

よっぽどの天才を除いて、

普通の人が危機的状況を見逃して刹那的な快楽の中を謳歌した場合、

その後の人生は、悲惨です。

悲惨で凄惨です。

これは脅かしではなく、

人間社会に流れる裏の法則です。

レポートのタイトルショート ver

「どういう人生を送るか」ということを最終的に決めるのは、
現状を変えるためにどれだけのエネルギーを注げたかです。

断っておきますが、私はあなたに

「いたずらに苦しめ！」といているわけではありません。

ただ自分に合ったやり方で、

自分を高めるチャンスを手にしたこの瞬間を生きてください

と述べているのです。

手段は何でもいいです。

レポートのタイトルショート ver

私としてはやはり本読んで欲しいところですが、

それが苦手なら音声教材でもいいです。

それ以外でも、

何か自分にプラスになる習い事も良いですね。

もしあなたが私の提案通りに現状を変えるために尽力した場合、

もうお金に困ることはなくなるでしょう。

まあ、尽力する覚悟を持ったからこそ、

今こうして本書籍を読んでいるのですよね。

その点は心配なさそうです。

【ピンチと絶望のレッスン】

ここまで私の文章を読んでくださって、本当にありがとうございます。

あなたほどの向学心・向上心がある人なら、

私を追い越すのも時間の問題ですね。

いや本当に。

さて、

熱心なあなたに少し気をつけておいて欲しいことがあります。

それは、ピンチや絶望に出会ったときの過ごし方です。

レポートのタイトルショート ver

実は、成功者といわれる人たちは

常に順風満帆であったわけではありません。

凡人が経験する以上のピンチや絶望を経験しているのがほとんどです。

ある程度の危機は回避できますが、

それでも言い知れないピンチに襲われてしまったときは

こう考えてください。

ヘレンケラーほどピンチだろうか

レポートのタイトルショート ver

こんなことをいうと、

ヘレンケラーさんに失礼かもしれません。

でも、普通の人が彼女の立場に突然置かれたら、

果たして彼女と同じ道を歩めたでしょうか？

目も耳も不自由になってしまったとき、

私は平静を保つ自信がありません。

これまでの様にいられる自信がありません。

レポートのタイトルショート ver

だからこそ、私はハンディキャップを物ともせず

生を全うしたヘレンケラーさんを尊敬します。

私たちの経験するピンチなんて、たかが知れているのです。

その状況を打破する知恵は、

実は先人たちが模範解答を用意してくれています。

でも意外に隠れていたりするので、読書等を通じて探し出す必要があるのです。

【さあ、鎖を外そう】

多分、この章もこれで最後です。

最後は象さんの話でもしましょうか。

サーカスの象の話をご存知ですか？

象って、

人間など簡単に蹴散らせるほどの怪力を持っているのに、

どうしてサーカスの象はあんなに従順なのでしょう。

教育が行き届いているから？

レポートのタイトルショート ver

そう、“教育”のおかげです。

サーカスの象は子供のときから頑丈な鎖を足に繋がれて過ごします。

象といえど、子供なら簡単には外れない強度です。

するとその象は、

「外せなくて当たり前」 という認識を持つようになります。

そのまま大人になっても、本当は造作もなく外せる力があるのに

象は**黙って**鎖に繋がれています。

私たちも同じです。

子供の頃から受けてきた教育が、

まさにこの世の真理であるかのように思っています。

それが、本当は脆弱な鎖だとも知らずに。

だからこそ、私はあなたを解放しに来ました。

繋がれたままでいいなら話は別ですが。

どうしますか？

レポートのタイトルショート ver

その鎖を外して、もっと自由な世界を見てみませんか？

「世の中そんなに甘くない」

億万長者が同じセリフを言ったなら、私もさすがに諦めますが。

そんなことはないのです。

功成り名遂げた人が絶対にインタビューで言わないホンネはこうです。

「世の中、思ったより甘かった」

「成功なんて、ちょっと頑張れば誰でもできるのに・・・」

「みんな、難しく考え過ぎ。結局ちょっとした覚悟があるか無いかだよ」

「人間は、自分が考えているような人間になる」

アールナイチンゲール

【コラム：成功のウラワザ】

読書の重要性を学んだ。

お金の大切さと必要性を確認した。

社会のリアルを胸に刻んだ。

もうあなたは**地図**をゲットしました。

レポートのタイトルショート ver

あとひとつ、私からアドバイスをします。

あなたに持っていて欲しいもの。

それは謙虚さです。

ただこれは、

読書や学習を重ねていけば自然に身につくとは思っているので

心配はないのですが・・・。

読書をしていくとやがて気づくことがあります。

「自分は何も知らなかった」ということです。

レポートのタイトルショート ver

その瞬間はとてもショックなことですが、

ぜひ歓迎して欲しい瞬間でもあります。

あなたはまたひとつ、謙虚な自分に近づいたのですから。

この世界では、

謙虚さなくしての成功などあり得ません。

大敵は傲慢さなのです。

「自分はこんなに勉強した」

「他人よりも言葉を知っている」

レポートのタイトルショート ver

こういう態度を取った瞬間成長が止まります。

第一、競争相手が他人の時点でアウトです。

あくまで昨日の自分と競争してください。

この思考を獲得すると、

大事なものは「成長密度」ということが分かります。

どういうことかという、

私たちは1年で歳をとるわけですが、

ただ1年という時間を過ごしただけで何にも変わっていなければ

本当に“歳をとっただけ”になってしまいます。

レポートのタイトルショート ver

重要なのはその1年で

どれだけ多くを学んだかに尽きるのです。

話を戻しまして、とにかく謙虚さを持ちましょう。

現代は意外と謙虚が欠落した人間が多いです。

つまり、

謙虚さを意識できればもう抜きんでることができます。

もっといいでしょうか？

宇宙一の謙虚者になれば、自分の母星では王になれます。

次はあなたの番です。



私がなぜ、

あなたにこれまで述べてきたことを**伝えなければならなかったのか、**

少しその話をしましょう。

結論からいえば、**バトンを渡すためです。**

レポートのタイトルショート ver

少し格好つけていうと、

知恵のバトンをあなたに渡したかったのです。

私は、これまで多くの本を読んできました。

ある時読んでいた本に、次のような言葉がありました。

「膨大な読書をしていると、いずれ本を書いてみたくなる」

さすがにその時は、

「ないない(笑)」と流してしまったのですが、

今こうしていることから、その本が正しかったのです。

レポートのタイトルショート ver

もちろん、私が書いたものは電子書籍です。

(厳密に言えば打ち込んだですが)

本屋さんに売っているようなものではありません。

しかし、内容では負けていない！

なんていってみます。

話を戻しますが、

先ほどの「書いてみたくなる」というのはどういうことなのかを説明します。

レポートのタイトルショート ver

これは単純に、

「作家ごっこ」がしたくなるという意味ではなく、

膨大なインプットの結果としてアウトプットする時が来るという意味です。

いつか話したバランスの話が適用されたわけです。

私たちが宇宙の一部である以上、

当然にそのテーマを受け継いでいるのです。

そして今、

あなたはそのバトンの一部を受け取りました。

レポートのタイトルショート ver

今度はあなたが、どこかのタイミングで誰かにバトンを繋いでくださいね。

では、またどこかでお会いしましょう。

平野 謙太